

講演会 & ライブ な日々⑭

古川 秀明

「和歌山 串本 台風旅2」

紀伊大島

次なる目的地は紀伊大島。

♪「ここは～串本～向かいは大島～中をとりもつ～巡航船～」♪

串本節でも有名だ。

しかし、最近ではテレビCMで話題になった。



このくるくる回っている道路。
本州串本と紀伊大島を結ぶ串本大橋。
ここで撮影され、有名になったそうだ。
その串本大橋を案内してもらった。
こんな感じでくねくねぐるぐる。
確かにぶっ飛ばしたら気持ち良さそうな道。
都会に近かったらバイクで走りに来る人も多いだろう。
私が行った日は台風の影響なのか、車は1台もいなかった。
昔は巡航船でしか行き来できなかった紀伊大島。
案内してくれた人も紀伊大島のご出身。
便利にはなったが、田舎は田舎ですと謙遜されていた。
とにかく人生初の紀伊大島上陸だ！
串本大橋をくるくると回り、紀伊大島に上陸。
橋でつながっているから、島という感じはしない。



夕焼けに空が赤く染まってきた。



案内してもらったのは「檜野埼灯台」と「トルコ記念館」
「檜野埼灯台」は分かるが、なんで「トルコ記念館」なんだろう？
なんの記念なのかな？
ま、行けばわかるさ。(行ってびっくりしたのだが・・・)



檜野埼灯台口のバス停。
時刻表を見てみると・・・

串本町コミュニティバス
檜野灯台口

《大島・出雲線》標準時刻表

| 行先 | 串本方面 <small>(大島港、串本町の東側部 くしもと町立病院付近)</small> |
|------------------|---|
| 出 発 時 刻 | 7:43 |
| | 10:00 |
| | 12:00 |
| | 14:20 |
| | 16:00 |
| | 17:50 |

※1：道路状況により運行スケジュールが変更される場合があります。予めご了承ください。
※2：雨天、大雪等の場合は、運行が中止となる場合があります。予めご了承ください。
※3：本町観光協会より、観光客向けに運行スケジュールを案内しております。詳しくは観光協会までお問い合わせください。
※4：本町観光協会より、観光客向けに運行スケジュールを案内しております。詳しくは観光協会までお問い合わせください。
※5：本町観光協会より、観光客向けに運行スケジュールを案内しております。詳しくは観光協会までお問い合わせください。

路線図 檜野灯台口 串本町コミュニティバス

【お問い合わせ先】 串本町観光協会 電話：0934-32-1111 / 0934-32-1112

一日に6本しかない。
いや、地方の路線バスなら6本あるだけでも多い方かも。



綺麗な雲を見ながら、トルコ記念館に案内してもらった。
その道すがら、串本とトルコの深い関係を聞いて驚いた。
それは1890年（明治23年）に檜野埼灯台近くでオスマン帝国（現在のトルコ）のフリゲート艦エルトゥールル号が座礁した時のことに由来する。
座礁したエルトゥールル号の乗組員を、地元大島村（今は串本町）の村人が総がかりで救助した。

そのことに感謝したトルコと日本の友好が始まった。

この出来事は映画にもなると教えてもらった。

そこで私の記憶がよみがえった。

この映画、私も観た。



日本・トルコ合作映画「海難1890」

2015年の映画だから2年前。

トルコと日本、時を越えお互いを信じあい、助け合う。

今、北朝鮮やアメリカに望まれるのはまさにこのことだろう。

攻撃するより、お互いに助け合い、分かり合う。

トルコ記念館はこのエルトゥールル号の救助活動を記念した博物館だったのだ。



エルトゥールル号の事件を今の日本人はほとんど知らない。

ところが・・・、

イラン・イラク戦争が続いていた、1985年3月17日、イラクのサダム・フセインが「今から48時間後に、イランの上空を飛ぶ飛行機を全部打ち落とす」ということを世界に向かって発信した。

イランに住んでいた日本人は、慌ててテヘラン空港に向かったが、どの飛行機も満席で乗ることができなかった。世界各国は自国民の救出をするために救援機を出したが、日本政府はすばやい決定ができなかったため空港にいた日本人はパニックに陥った。

そこに2機のトルコ航空の飛行機が到着した。トルコ航空の飛行機は日本人216名全員を乗せて、トルコ（アンカラ経由イスタンブール）に向かって飛び立った。

タイムリミットの、1時間30分前であった。

なぜ、トルコ航空機が来てくれたのか、日本政府もマスコミも知らなかった。

後に駐日トルコ大使のネジアティ・ウトカン氏は次のように語られた。

「エルトゥールル号の事故に際して、日本人がなしてくださった献身的な救助活動を、今もトルコの人たちは忘れていません。私も小学生の頃、歴史教科書で学びました。トルコでは子どもたちでさえ、エルトゥールル号の事を知っています。今の日本人が知らないだけです。それで、テヘランで困っている日本人を助けようと、トルコ航空機が飛んだのです。」

※この事は、あまり日本人に知られていません。



こんな小さな記念館だけれど、中に詰まっているのはとても美しいものだ。

しかし、こんな悲しい事件もあった。

ムスタファ・ケマルはオスマン帝国の将軍で、トルコ共和国の元帥でもあり、初代大統領でもある。

トルコでは英雄の中の英雄として知られる、まさにトルコの誇りたる人物。日本で言えば、西郷隆盛、坂本龍馬、勝海舟、う～ん、聖徳太子も入るかな。なにせ、それぐらいトルコ人にとっては、トルコ建国の父である大切な人物。時は1996年、今から21年前に遡る。新潟県柏崎市に民間企業の運営で「柏崎トルコ文化村」というテーマパークが作られることになった。



それを記念して、トルコ政府から友好の証としてトルコの英雄ムスタファ・ケマル像が寄贈された。

トルコ政府はエルトゥールル号救出以来、ずっと日本に友好的なのだ。ところがその民間企業が倒産した。

柏崎市は06年7月、上越市のプラスチック製品製造会社「ウェステックエナジー」に「トルコ文化村」(約5万2千平方メートル)を1億4千万円で譲渡した。譲渡に当たっては「トルコとの友好関係に十分配慮するとともに、アタチュルク像の今後の取り扱いは十分、市と協議する」と明記された。

同社は施設を改修して結婚式場をオープン。

像はそのまま展示したのだが、07年7月16日に新潟県中越沖地震があり、「像が傾いてしまい倒壊する恐れがある」との理由で、像を台座から外した。



当初は野ざらしで放置され、その後ブルーシートがかぶせられていた。像を台座から外して間もなく、産経新聞などが「親日国の英雄への『冷遇』に、友好団体や市民からは『非礼だ』との声が上がっている」などと報じ、像の扱いを非難する記事を掲載。この問題は広く知られるようになった。

しかし、産経新聞 07 年 9 月 30 日付けによると
(ウェステックエナジーの)飛田尚芳社長：「いつまでもトルコのことを言われるのは正直、迷惑な話だ。市が移転するなど至急対処してほしい！」
会田洋市長：「想定外だ。市の物ではないので、市が補修したり買い取ることはない！」
こんなやり取りが両者の間であったと書いている。
それがずっと解決されないまま時間が過ぎて行った。

トルコと日本の友好の印であるムスタファ・ケマルの像。
なんやかやともめ続けていた。
09 年 2 月 16 日頃からメールや電話で「アタチュルク像を助けて欲しい」といった要望が多数届くようになった。
中には移設のための募金、並びに資金提供を申し出る人もいたという。
そしてとうとう 07 年末にトルコ大使館から、費用は全て大使館が負担する用意があるので、「移設していただけないか・・・」という要請があった。
そこまで言われて黙っているわけにいかない。
日本とトルコの友情が始まったエルトゥールル号遭難事件があった和歌山串本町が手を挙げた。
串本町議会は全会一致で像の受け入れに賛成した。



ムスタファ・ケマル：「日本のみなさん、私達トルコ人はあなた方の友情を終生
忘れません。どうもありがとう！」

夕闇の中でムスタファ・ケマルさんがそう言っているように思えた。

私は深々と頭を下げた。

「こちらこそ、航空機を出して頂いたり、像が倒れたままになったままだったり、
最後は移転費用の心配までさせてほんまにすいませんでした」と、心の中でお詫
びした。

こんなふうに世界中の国が友情で結ばれたら素敵だ。



ムスタファ・ケマル：「さあ古川君、次はあそこに見える灯台を見学したまえ。
あそこから見える夕日は綺麗だぞ！」

古川：「はは～、閣下、そうさせていただきます」

私はムスタファ・ケマルさんお薦めの灯台を目指した。

檜野崎灯台は「日本の灯台の父」と呼ばれるリチャード・ヘンリー・ブラントンが日本で最初に設計し、1870年7月8日（明治3年6月10日）に初点灯した日本最初の石造灯台。



日本最初の回転式閃光灯台でもあり、その初期の建物が現存している。



エルトゥールル号遭難（1890年9月16日）の場所としても知られる檜野崎に建つ白亜の無人灯台で、灯台内部へは入れないが外部階段から灯台に登ることができる。



夕暮れ時の灯台は美しかったし、そこからは和歌山の素晴らしい景観を一望できた。



「エルトゥールル号遭難慰霊碑」も灯台から歩いてすぐのところにある。



日本とトルコの友情にバンザイ！！

よし、私も機会があればトルコのみなさんの為になにかお役に立つことを考えよう！

(最後まで読んで頂き、ありがとうございました。次号に続きます・・・)

シンガーソングライター
ふるかわひであき